

優良農家の紹介

棚田を再生しブルーベリー園「木の^{このみ}実の森」開園

はじめに

養父市大屋町の「木の^{このみ}実の会」(代表 石井憲二)では、長年耕作放棄されていた棚田を活用して、2006年6月にブルーベリー摘み取り園「木の^{このみ}実の森」を開園させた。

取組の概要

(1) 棚田の風景を活かした園地づくり

ススキとササで覆われて、ほ場の形状すら分からなかった棚田を1年間かけて整備し、かつての石垣のある風景を取り戻した。2005年春に植栽をはじめ、園地面積120a、植栽ほ場面積85a、1,200株のブルーベリーのポットが整然と並んだ新たな景観が作り出された。(図1)

(2) 栽培方法

ブルーベリーはpH4前後の強酸性土壌で良好な生育が得られるため、ピートモス100%の培土を使用している。灌水方法は、棚田の高低差を利用した自然流下によるチューブ灌水を行っている。

(3) 経営の内容

開園期間：6月中旬～7月下旬

<摘み取り園>入園料:大人(中学生以上)1,000円、子供(小学生)800円、園内食べ放題。お土産

(300g)付き。

<オーナー制>年会費1口1万円で、4kg以上の摘み取りを保証。

また、苗木や加工品の販売も行っている。

加工品による魅力づくり

ブルーベリーの栽培と併せて、女性が中心となって「ブルーベリージャム」「ブルーベリーソース」(図2)の生産販売を行っている。販売場所は地元農産物直売所や「ひょうごふるさと館」(神戸市)など。

今後の課題

(1) 観光摘み取り園経営の安定

PR活動の充実を図るとともに、魅力ある園地づくり、品質の高い果実生産により、安定した集客を目指す。

(2) 棚田の風景を活かした地域づくりへ

石垣のある棚田の景観を地域の財産として守りながら、地域全体を巻き込んだ活動を目指す。

農園への連絡は079-669-1039(上垣耕作)まで。

松田 喜彦(八鹿農業改良普及センター)
(問い合わせ先 電話:079-662-6175)



図1 棚田に整然と並んだポット



図2 ブルーベリーのソースとジャム

ひょうごの農林水産技術 No.151

平成19年5月1日(隔月刊)

兵庫県立農林水産技術総合センター(0790)47-2400